

# RIVER

One and Only Creator

## 第64期 株主通信

2008年4月1日～2009年3月31日

# 2009 Business Report

リバーエレクトック株式会社

# To Our Shareholders

株主の皆様へ

株主の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。このたび当社第64期事業年度を終了いたしましたので、事業の概況等をご報告申し上げます。

## 第64期業績について

当期の経済環境をみますと、欧米の金融危機に端を発した世界同時不況による企業業績の悪化を受け、景気は後退局面に入り、大変厳しい状況で推移いたしました。

このような経営環境のもと、当社グループは収益構造の改善や生産設備の稼働効率向上に努めて、利益創出体質への改革に取り組んでまいりました。また提案型技術営業力の強化と品質向上に努める「顧客の満足と信頼の獲得」、新コア技術による次世代製品への挑戦などを軸とした「独創的発想による価値の創造」、海外売上高比率向上などを実現する「事業変革による持続的な成長」を経営方針として定め、高付加価値創造企業の実現を進めてまいりました。

しかしながら、主要得意先によるかつてない急激な生産調整や水晶デバイス市場における価格競争の激化の影響により受注が大幅に減少し、連結売上高は昨年度を下回る58億8千4百万円となりました。

損益につきましては、生産体制の最適化による原価削減や労務費を中心とした固定費縮減に努めましたが、大幅な減収を吸収することができず、営業損失は7億9千5百万円、経常損失は7億9千4百万円となりました。また、当期純損失は、固定資産除却損、減損損失および貸倒引



当金繰入額の計上等により発生した特別損失および繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額を計上したことにより14億2千5百万円となりました。

## 配当金について

配当金につきましては、長期安定的な企業価値向上によって、株主の皆様への安定的な配当を継続的に行い、これに加え、連結業績および配当性向等を総合的に勘案した利益還元を行うことを基本方針としておりますが、経営環境は大変厳しく、誠に遺憾ながら当期の期末配当を無配とさせていただくことになりました。

なお、2008年12月に1株につき3円の間配当金をお支払いしておりますので、年間配当金は3円となります。

## 中期経営計画の進捗状況

さて今後の事業につきましては、当社グループは、「第2次3ヵ年中期経営計画」の2年目にあたる2010年3月期において、経営ビジョンに基づき、以下の3つの重点戦略に取り組んでまいります。今後も引き続き高付加価値企業の実現を目指し、水晶製品の「小型・薄型化」におけるリーディング・カンパニーを目指してまいります。

### ①生産体制の再編

高いコスト競争力と収益力を獲得するため、生産体制の合理化を推進します。これまで水晶製品は「青森リバーテクノ株式会社」のみで生産をしておりましたが、2009年度後半よりRiver Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd. (マレーシア) で小型水晶振動子の生産を開始する予定です。また国内生産体制については、音叉型水晶振動子を含む超小型製品に生産を集約し、工場の統合も視野に入れた生産体制のスリム化、効率化を図ってまいります。

### ②音叉型水晶振動子の販売拡大

製品コンセプトである「小型化」「薄型化」「高品質」を追求し、新しい顧客価値を創造することが重要であると考えています。その中で当社グループは、主として電子機器の時計機能に用いられる音叉型水晶振動子にフォーカスしていきます。長さ2.0mm、幅1.2mm、高さ0.6mmの業界最小の音叉型水晶振動子『TFX-O3』は、中国、インドなどの新興国を中心に成長が期待される携帯電話やデジタルオーディオプレーヤー向けなどに市場拡大が見込まれます。

### ③市場構造に対応した販売チャネルの再編

エレクトロニクス業界では、メーカーが製品の生産を委託するいわゆるEMS (Electronics Manufacturing Service) 企業が急成長しており、海外における小型水晶製品の需要が高まっています。今後、River Electronics (Singapore) Pte. Ltd.の上海駐在所の体制強化や海外販売に強い商社の起用など、中国・韓国などのアジアを中心とした海外市場の販売網を強化し、海外売上高向上を図り、さらなる成長を目指します。

## 全社一丸となって再成長への改革を進めてまいります

取締役会において決議した「業務の適正を確保するための体制に関する基本方針」(いわゆる内部統制システム)に基づき内部統制の実効性の維持向上に努めております。しかしながら、当期において内部統制上の問題が発見されましたので、是正処置を取るとともに、翌期以降の内部統制の厳格な運用に取り組んでいく方針であります。今後は二度とこのようなことがないように、万全な内部統制の確立とコーポレートガバナンスの推進に全力を挙げて取り組んでまいります。

また、取締役の任期満了に伴いまして、経営陣も新体制となり再成長へ向けて全社一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月

代表取締役社長 若尾富士男

### 水晶デバイスのカラクリと必要性

下記の電子機器は、私たちの身の回りにあるなじみの深いものばかりで、それぞれ用途やデザイン、製造メーカーは異なるのに、共通点があります。それは水晶デバイスが組み込まれていることです。

水晶デバイスのひとつ、水晶振動子は、ある角度で薄く切断した人工水晶に電極を取り付けたものを、セラミックパッケージの中に入れ、蓋を溶接し封止した電子部品です。電圧を加えると振動（圧電逆効果）する水晶の特性を利用し、正確な

周波数を作り出すことで幅広い電子機器の周波数制御やクロック源として利用されています。水晶は温度などの環境条件に対する安定性が非常に高いため、正確な動作を要求される機器には必ず使用されています。

水晶デバイスは電子機器の各機能を取りまとめる役割をし、規則正しい周波数や電気信号を維持しているのです。



#### 携帯電話

ワンセグチューナー  
Bluetooth  
時計・カレンダー機能  
カメラ機能  
など



#### デジタルスチルカメラ デジタルビデオカメラ

メインクロック  
時計・カレンダー  
機能など



#### パソコン、周辺機器

メインクロック  
時計・カレンダー  
機能など



#### フラットテレビ チューナー LCD 制御



#### シリコン オーディオ・ ゲーム機器

メインクロック  
時計・カレンダー  
機能など



#### キーレス・カーナビ 自動車

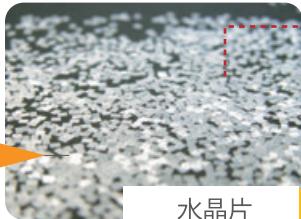
時計機能・ETC  
各種制御・イモビライザーなど

#### 水晶デバイスができあがるまで



水晶原石

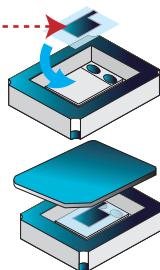
水晶デバイスには、不純物の少ない品質の安定した人工水晶が用いられます。



水晶片

水晶を切断、研磨し、目的のサイズや周波数特性に合わせて加工を行います。

ここに水晶片（薄さ 20~50ミクロン）の片側が浮くような形で取り付けます。



水晶デバイス

電極を付した数ミリの水晶片を、電子ビームを利用しパッケージの中に真空状態で封入します。

実物大の水晶振動子  
FCX-07L(1.6×1.2×0.35mm)



## 水晶デバイスの将来性

重い携帯電話を肩に担いでいた時代に、テレビも視聴できるスマートな携帯電話を誰が想像できたでしょうか?いまやワンセグ内蔵、Bluetooth内蔵という高機能な携帯機器を多くの人々が利用できる時代になっています。また、医療の現場でもカプセル内視鏡のような新しい技術が、病気の早期発見、身体への負担軽減を実現しています。あらゆる電子機器が小型、高性能、多機能化と進化するなかで、周波数の基準となる水晶デバイスの小型化は、これからの社会に欠かせません。



カプセル内視鏡



例えば、デジタル無線市場（無線 LAN、高速 Bluetooth、WiMAX、3G、次世代 PHS、LTE、ZigBee など）は今後数年で大きく拡大していくと予想され、電子機器はより一層の小型化が求められています。世界規模でこれらの次世代通信技術を見た場合、水晶デバイスが担う役割は大きく、何億という人々の生活がより便利になるでしょう。

時代は水晶デバイスの小型化を求めています。当社はさらにと光る水晶のように、将来を明るく照らす独自技術をもって、どこよりも小さく、どこまでも小さく、より魅力的な水晶デバイスを開発していきます。



## 水晶デバイスの開発秘話

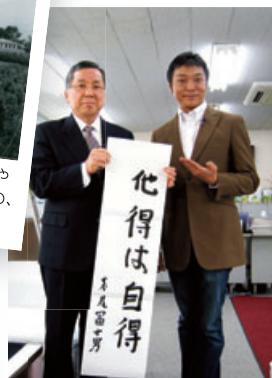
日本を支えるものづくりの原点（知られざるハイテクノロジー）を世界各国に発信するドキュメンタリー番組「J-TECH」（NHK ワールド TV）が放送され、当社の歴史や電子ビーム封止工法の開発秘話、小型化へのさらなる挑戦などが紹介されました。

番組タイトル「The World's Smallest Crystals」（世界で最も小さな水晶製品）と題され、普段はほとんど知られることがない「ものづくりの現場」、その雰囲気や技術者の意気込み、熱意が描かれ、多くの人に当社製品や技術力を知っていただきました。



番組ライブラリ

昭和 35 年当時の社屋。伊勢湾台風や水害による旧社屋、設備半壊のため、現在の場所に移転しました。



ナビゲーターはバックンマクソン。当社社長の座右の銘も紹介。



水晶振動子の模型を作り、内部の様子を詳しく解説。

### 当期業績の概要

当期におけるわが国経済は、世界的な金融危機により秋以降急減速し、それに伴った円高、株安の進行により、企業収益は急激に落ち込みました。また、雇用環境の悪化による先行き不透明感などから個人消費が冷え込むなど景気は急速な後退局面に陥りました。

リバーグループが主に事業を展開している水晶デバイス業界では、携帯電話やパソコン等のデジタル機器に需要低迷傾向が見られるなか、期初は前年を上回る生産数量で推移したものの、期の後半において世界的不況の影響を受け、自動車用水晶振動子を筆頭にすべての品種において急激な落ち込みとなりました。

このような環境のなかで、リバーグループは、2011年3月期を最終年度とする第2次3ヵ年中期経営計画に基づき、その初年度にあたる当期は、「営業体制の強化」「リバーブランドの強化」「低コスト生産の追求」などの重点課題に取り

組みました。

その結果、当期の売上高は、携帯電話市場における超小型水晶製品の伸び悩み、世界的な景気後退による急激な生産調整などから58億8千4百万円（前年同期比36.6%減）となりました。また、利益につきましては、生産体制の最適化による原価削減や労務費を中心とした固定費縮減に努めましたが、大幅な売上高の減少を吸収するまでには至らず、営業損失は7億9千5百万円（前年同期は9億9千2百万円の営業利益）、経常損失は7億9千4百万円（前年同期は9億9千8百万円の経常利益）となりました。また、当期純損失は、固定資産除却損、減損損失および貸倒引当金繰入額の計上等により発生した特別損失および繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額を計上したことにより14億2千5百万円（前年同期は5億8千8百万円の当期純利益）となりました。

### 次期の見通し

今後の見通しにつきましては、なお景気停滞感が強く、予断を許さない状況が続くと予想されます。リバーグループが主に事業を展開している水晶デバイス市場においても、世界経済低迷の影響が続くことから、生産は対前年比でマイナス成長と予想され、在庫調整後も市場回復は緩やかで、本格的な需要の拡大は次年度以降となると推定しております。

このような環境のなか、当社グループでは、強みである超小型水晶製品の市場開拓を進めるとともに経営基盤の改善を図るべく提案営業力の強化、生産体制の最適化・再構築による低コスト生産の強化を進めてまいります。売上高につきましては、超小型水晶製品の受注数増加が見込まれるものの、

競争激化に伴う販売価格の下落が大きく影響し売上高は減少するものと思われれます。また、引き続き抵抗器の事業環境の変化に起因した受注数の減少もあり、47億4千3百万円（前年同期比19.4%減）を予想しております。利益につきましては、引き続き人件費を中心とした固定費の縮減に努めますが、上記売上高減少の影響が大きく、営業損失14億9千8百万円（前年同期は7億9千5百万円の営業損失）、経常損失15億3千1百万円（前年同期は7億9千4百万円の経常損失）、当期純損失17億8百万円（前年同期は14億2千5百万円の当期純損失）をそれぞれ見込んでおります。

#### 将来に関する記述についての注意事項

本資料に記載されている業績予想および客観的事実以外の記述に関しましては、当社が現在入手している情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。当社グループの事業を取り巻く環境の変化等により、実際の業績等は異なる可能性があることにご留意ください。

## セグメント別事業概要

### (水晶製品事業)

水晶製品事業につきましては、リバーグループがターゲットとしている無線モジュール、携帯電話向けの小型製品市場において、主要取引先による急激な生産調整により販売数量が落ち込み、また、需給バランスの悪化により販売価格競争が激化いたしました。

2520サイズ(2.5×2.0mm)～1612サイズ(1.6×1.2mm)の超小型のバリュー製品においては、小型チューナモジュール向けが好調に推移したものの、無線モジュール、携帯電話向けの受注落ち込みおよび競争激化による価格下落が大きく、売上高は前年同期を下回りました。

5032サイズ(5.0×3.2mm)～3225サイズ(3.2×2.5mm)のボリューム製品においては、デジタルカメラ向けの受注減少や海外市場での販売比率が高いパソコン関連向けが円高による為替の影響を受け、売上高は前年同期を下回りました。

音叉型水晶振動子においては、2008年3月に販売を開始した『TFX-03』が売上を伸ばしましたが、パソコン関連向けの受注が落ち込み、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、当事業の連結売上高は54億6千9百万円(前年同期比36.5%減)となりました。

### (抵抗器事業)

抵抗器事業につきましては、主として海外市場のAV機器や電源等の分野に販売を展開しております。

当事業の連結売上高は、主要市場の縮小による受注減少の影響が大きく響き、2億1百万円(前年同期比44.4%減)となりました。

### (インダクタ事業)

インダクタ事業につきましては、主としてAV機器や照明機器の分野に販売を展開しております。

当事業の連結売上高は、AV機器向けの受注減少の影響により、1億5千2百万円(前年同期比33.0%減)となりました。

### (その他事業)

その他事業につきましては、開閉器等の販売を展開しております。

当事業の連結売上高は、6千1百万円(前年同期比29.5%減)となりました。

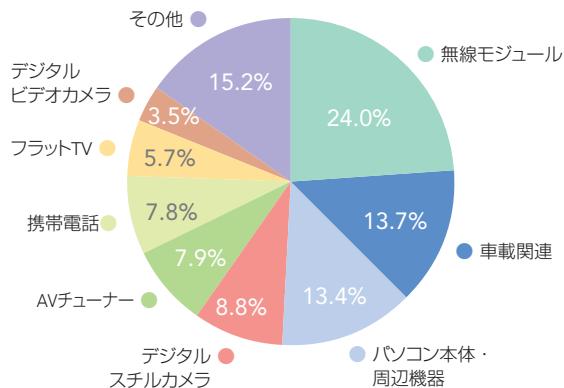
### セグメント別売上高・営業利益(連結)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
水晶製品	5,469	△37
抵抗器	201	32
インダクタ	152	5
その他	61	23
全社又は消去	—	△818
合計	5,884	△795

(注) 全社又は消去の主な内容は当社の管理部門に係る費用になります。

### 水晶製品用途別売上高構成(連結)



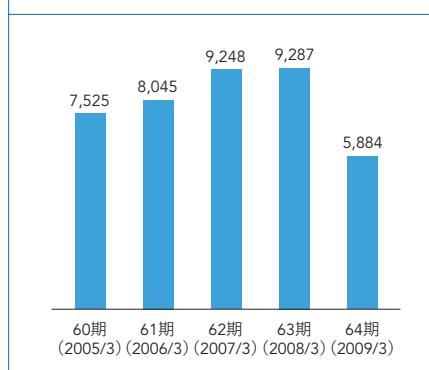
# Financial Highlights

5年間の業績推移(連結)

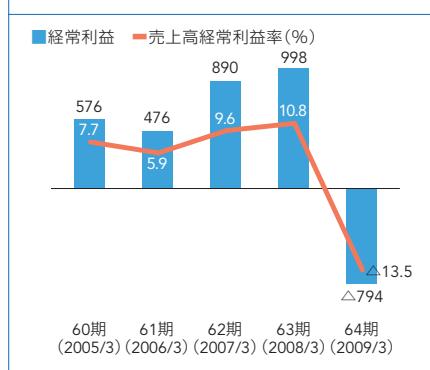
(単位:千円)

3月31日に終了した年度	2005	2006	2007	2008	2009
売上高	7,525,470	8,045,511	9,248,214	9,287,110	5,884,751
売上総利益	2,060,889	1,995,419	2,623,032	2,695,764	577,290
売上総利益率	27.4%	24.8%	28.4%	29.0%	9.8%
営業利益	523,234	370,285	862,253	992,721	△ 795,168
営業利益率	7.0%	4.6%	9.3%	10.7%	△ 13.5%
経常利益	576,226	476,294	890,395	998,850	△ 794,920
経常利益率	7.7%	5.9%	9.6%	10.8%	△ 13.5%
当期純利益	329,964	171,210	498,750	588,131	△ 1,425,763
当期純利益率	4.4%	2.1%	5.4%	6.3%	△ 24.2%
設備投資	1,411,706	1,492,096	1,261,372	2,024,521	774,839
減価償却費	756,041	910,263	986,131	1,147,776	1,218,660
研究開発費	121,092	119,065	251,905	266,364	228,002
<b>年度末</b>					
総資産	11,534,093	11,941,319	13,059,087	12,474,601	10,871,430
自己資本	7,450,775	7,580,828	7,980,622	8,345,694	6,574,584
有利子負債	1,480,692	1,884,257	1,777,105	1,376,331	2,820,138
従業員数(人)	373	375	379	378	368
(外、契約社員、派遣社員等)	(457)	(466)	(470)	(467)	(306)

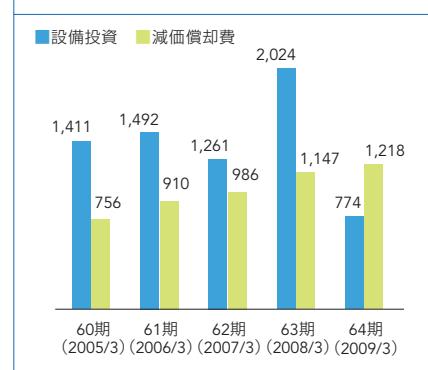
売上高 (単位:百万円)



経常利益・売上高経常利益率 (単位:百万円)

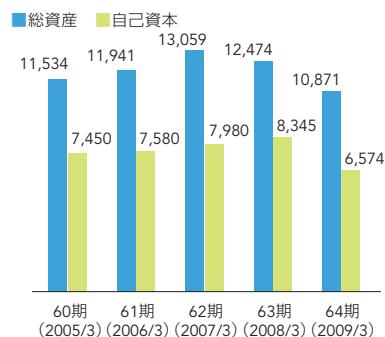
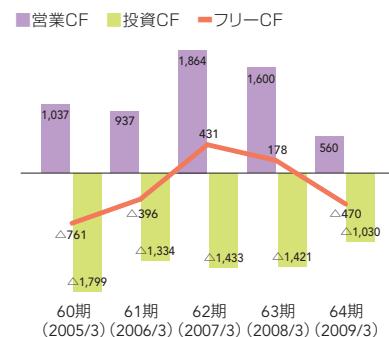
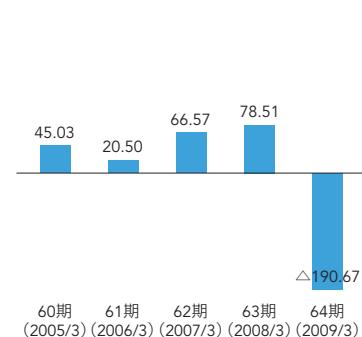


設備投資・減価償却費 (単位:百万円)



(単位:千円)

3月31日に終了した年度	2005	2006	2007	2008	2009
セグメント別売上高					
水晶製品	5,976,169	7,367,733	8,532,632	8,610,299	5,469,515
構成比	79.4%	91.6%	92.3%	92.7%	92.9%
抵抗器	471,663	381,332	419,355	362,801	201,692
構成比	6.3%	4.7%	4.5%	3.9%	3.4%
インダクタ	233,191	196,953	198,520	226,836	152,059
構成比	3.1%	2.5%	2.1%	2.5%	2.6%
リチウムコイン電池	738,244	—	—	—	—
構成比	9.8%	—	—	—	—
その他	106,201	99,491	97,705	87,173	61,484
構成比	1.4%	1.2%	1.1%	0.9%	1.1%
<b>キャッシュ・フロー</b>					
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,037,610	937,366	1,864,955	1,600,438	560,047
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,799,403	△1,334,102	△1,433,073	△1,421,878	△1,030,143
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,006,935	264,658	△218,792	△568,306	1,348,798
現金及び現金同等物の期末残高	1,225,326	1,142,356	1,382,129	987,369	1,749,468
(単位:円)					
<b>1株当たり指標</b>					
1株当たり当期純利益	45.03	20.50	66.57	78.51	△190.67
1株当たり純資産	992.06	1,009.55	1,065.28	1,114.01	891.88
1株当たり配当金	18.00	15.00	15.00	15.00	3.00

**総資産・自己資本** (単位:百万円)**キャッシュ・フロー** (単位:百万円)**1株当たり当期純利益** (単位:円)

# Consolidated Financial Statements

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (2009年3月31日現在)	前期 (2008年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	4,503,618	5,185,387
現金及び預金	2,278,613	1,552,379
受取手形及び売掛金	1,074,610	2,405,868
たな卸資産	861,974	911,223
その他	290,531	319,665
貸倒引当金	△ 2,110	△ 3,749
固定資産	6,367,812	7,289,213
有形固定資産	6,037,895	6,816,095
無形固定資産	28,774	34,455
投資その他の資産	301,141	438,663
資産合計	10,871,430	12,474,601
負債の部		
流動負債	2,206,176	3,113,037
支払手形及び買掛金	501,840	958,617
短期有利子負債	1,202,596	943,197
その他	501,740	1,211,222
固定負債	1,864,750	675,588
長期有利子負債	1,617,542	433,134
その他	247,208	242,454
負債合計	4,070,927	3,788,626
純資産の部		
株主資本	6,921,473	8,468,383
資本金	1,070,520	1,070,520
資本剰余金	957,810	957,810
利益剰余金	4,910,903	6,441,013
自己株式	△ 17,759	△ 959
評価・換算差額等	△ 346,889	△ 122,689
その他有価証券評価差額金	△ 35,254	12,695
為替換算調整勘定	△ 311,634	△ 135,385
少数株主持分	225,919	340,281
純資産合計	6,800,503	8,685,975
負債純資産合計	10,871,430	12,474,601

### 連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 2008年4月1日から 2009年3月31日まで	前期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	5,884,751	9,287,110
売上原価	5,307,460	6,591,346
売上総利益	577,290	2,695,764
販売費及び一般管理費	1,372,459	1,703,043
営業利益又は営業損失(△)	△ 795,168	992,721
営業外収益	41,129	66,927
営業外費用	40,881	60,798
経常利益又は経常損失(△)	△ 794,920	998,850
特別利益	1,651	40,595
特別損失	397,292	42,056
税金等調整前当期純利益又は当期純損失(△)	△ 1,190,561	997,389
法人税、住民税及び事業税	27,200	340,119
法人税等調整額	243,984	64,749
少数株主利益	△ 35,982	4,389
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 1,425,763	588,131

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 2008年4月1日から 2009年3月31日まで	前期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	560,047	1,600,438
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,030,143	△ 1,421,878
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,348,798	△ 568,306
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 116,603	△ 5,013
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	762,098	△ 394,759
現金及び現金同等物の期首残高	987,369	1,382,129
現金及び現金同等物の期末残高	1,749,468	987,369

## 連結株主資本等変動計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	当期		前期		科 目	当期		前期	
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで		2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
株主資本					評価・換算差額等				
資本金					その他有価証券評価差額金				
前期末残高	1,070,520	1,070,520			前期末残高	12,695	54,907		
当期変動額					当期変動額	△ 47,950	△ 42,212		
当期末残高	1,070,520	1,070,520			株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 47,950	△ 42,212		
資本剰余金					当期末残高	△ 35,254	12,695		
前期末残高	957,810	957,810			為替換算調整勘定				
当期変動額					前期末残高	△ 135,385	△ 123,097		
当期末残高	957,810	957,810			当期変動額	△ 176,249	△ 12,287		
利益剰余金					株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 176,249	△ 12,287		
前期末残高	6,441,013	6,021,442			当期末残高	△ 311,634	△ 138,385		
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	△ 25,684	—			評価・換算差額等合計				
当期変動額	△ 1,504,425	419,570			前期末残高	△ 122,689	△ 68,189		
剰余金の配当	△ 78,661	△ 168,560			当期変動額	△ 224,199	△ 54,499		
当期純利益	△ 1,425,763	588,131			株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 224,199	△ 54,499		
当期末残高	4,910,903	6,441,013			当期末残高	△ 346,889	△ 122,689		
自己株式					少数株主持分				
前期末残高	△ 959	△ 959			前期末残高	340,281	336,655		
当期変動額	△ 16,800	—			当期変動額	△ 114,362	3,625		
自己株式の取得	△ 16,800	—			株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 114,362	3,625		
当期末残高	△ 17,759	△ 959			当期末残高	225,919	340,281		
株主資本合計					純資産合計				
前期末残高	8,468,383	8,048,812			前期末残高	8,685,975	8,317,278		
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	△ 25,684	—			在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	△ 25,684	—		
当期変動額	△ 1,521,225	419,570			当期変動額	△ 1,859,787	368,696		
剰余金の配当	△ 78,661	△ 168,560			剰余金の配当	△ 78,661	△ 168,560		
当期純利益	△ 1,425,763	588,131			当期純利益	△ 1,425,763	588,131		
自己株式の取得	△ 16,800	—			自己株式の取得	△ 16,800	—		
当期末残高	6,921,473	8,468,383			株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 338,561	△ 50,874		
					当期末残高	6,800,503	8,685,975		



# Non-Consolidated Financial Statements

個別財務諸表

## 個別貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (2009年3月31日現在)	前期 (2008年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	3,840,548	3,368,080
固定資産	5,907,263	5,839,116
有形固定資産	4,370,845	4,964,832
無形固定資産	23,952	29,563
投資その他の資産	1,512,464	844,720
資産合計	9,747,811	9,207,196
負債の部		
流動負債	1,177,107	1,376,287
固定負債	1,770,574	559,301
負債合計	2,947,682	1,935,588
純資産の部		
株主資本	6,835,384	7,258,912
資本金	1,070,520	1,070,520
資本剰余金	957,810	957,810
利益剰余金	4,824,814	5,231,542
自己株式	△ 17,759	△ 959
評価・換算差額等	△ 35,254	12,695
その他有価証券評価差額金	△ 35,254	12,695
純資産合計	6,800,129	7,271,608
負債純資産合計	9,747,811	9,207,196

## 個別損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	前期 (2007年4月1日から 2008年3月31日まで)
売上高	5,492,986	8,567,864
売上原価	4,452,991	6,388,174
売上総利益	1,039,994	2,179,690
販売費及び一般管理費	1,103,239	1,347,638
営業利益	△ 63,244	832,051
営業外収益	54,615	64,755
営業外費用	35,129	53,362
経常利益	△ 43,759	843,444
特別利益	9	—
特別損失	180,085	25,793
税引前当期純利益	△ 223,835	817,650
法人税、住民税及び事業税	6,832	321,559
法人税等調整額	97,397	6,464
当期純利益	△ 328,066	489,627

## 個別株主資本等変動計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで		2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
株主資本			利益剰余金合計		
資本金			前期末残高	5,231,542	4,910,476
前期末残高	1,070,520	1,070,520	当期変動額	△ 406,728	321,066
当期変動額	—	—	特別償却準備金の取崩	—	—
当期末残高	1,070,520	1,070,520	収用等圧縮積立金の取崩	—	—
資本剰余金			剰余金の配当	△ 78,661	△ 168,560
資本準備金			当期純利益	△ 328,066	489,627
前期末残高	957,810	957,810	当期末残高	4,824,814	5,231,542
当期変動額	—	—	自己株式		
当期末残高	957,810	957,810	前期末残高	△ 959	△ 959
資本剰余金合計			当期変動額	△ 16,800	—
前期末残高	957,810	957,810	自己株式の取得	△ 16,800	—
当期変動額	—	—	当期末残高	△ 17,759	△ 959
当期末残高	957,810	957,810	株主資本合計		
利益剰余金			前期末残高	7,258,912	6,937,846
利益準備金			当期変動額	△ 423,528	321,066
前期末残高	100,000	100,000	剰余金の配当	△ 78,661	△ 168,560
当期変動額	—	—	当期純利益	△ 328,066	489,627
当期末残高	100,000	100,000	自己株式の取得	△ 16,800	—
その他利益剰余金			当期末残高	6,835,384	7,258,912
特別償却準備金			評価・換算差額等		
前期末残高	11,230	24,464	その他有価証券評価差額金		
当期変動額	△ 6,304	△ 13,234	前期末残高	12,695	54,907
特別償却準備金の取崩	△ 6,304	△ 13,234	当期変動額	△ 47,950	△ 42,212
当期末残高	4,926	11,230	株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 47,950	△ 42,212
収用等圧縮積立金			当期末残高	△ 35,254	12,695
前期末残高	13,201	24,766	評価・換算差額等合計		
当期変動額	△ 2,430	△ 11,565	前期末残高	12,695	54,907
収用等圧縮積立金の取崩	△ 2,430	△ 11,565	当期変動額	△ 47,950	△ 42,212
当期末残高	10,770	13,201	株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 47,950	△ 42,212
別途積立金			当期末残高	△ 35,254	12,695
前期末残高	4,000,000	4,000,000	純資産合計		
当期変動額	—	—	前期末残高	7,271,608	6,992,754
当期末残高	4,000,000	4,000,000	当期変動額	△ 471,478	278,854
繰越利益剰余金			剰余金の配当	△ 78,661	△ 168,560
前期末残高	1,107,110	761,244	当期純利益	△ 328,066	489,627
当期変動額	△ 397,993	345,865	自己株式の取得	△ 16,800	—
特別償却準備金の取崩	6,304	13,234	株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 47,950	△ 42,212
収用等圧縮積立金の取崩	2,430	11,565	当期末残高	△ 35,254	12,695
剰余金の配当	△ 78,661	△ 168,560	純資産合計		
当期純利益	△ 328,066	489,627	前期末残高	7,271,608	6,992,754
当期末残高	709,116	1,107,110	当期変動額	△ 471,478	278,854



# Corporate Profile

会社概要

## 会社概要

(2009年6月29日現在)

商号	リバーエレテック株式会社 RIVER ELETEC CORPORATION	事業所	
設立	1951年3月9日	東京営業所	〒160-0023 東京都新宿区西新宿四丁目40番14号
資本金	10億7,052万円	大阪営業所	〒570-0083 大阪府守口市京阪本通一丁目3番2号 新近藤ビル3F
社員数	111名 (2009年3月31日現在)	名古屋営業所	〒465-0043 愛知県名古屋市名東区宝ヶ丘292番地 藤佳ビル2F
事業内容	水晶振動子、水晶発振器等の電子部品の製造及び販売	宇都宮営業所	〒320-0057 栃木県宇都宮市中戸祭一丁目13番27号
所在地	〒407-8502 山梨県韮崎市富士見ヶ丘二丁目1番11号		
役員	代表取締役社長 若尾 富士男 専務取締役 岩下 功 取締役 三枝 康孝 取締役 高保 讓治 取締役 萩原 義久 常勤監査役 古屋 延行 社外監査役 越智 大藏 社外監査役 丸山 正和		

## リバーグループ(子会社の状況)

会社名	資本金	議決権比率(%)	事業内容
青森リバーテクノ株式会社	千円 50,000	100	電子部品の製造
台湾利巴股份有限公司	千台湾元 24,000	60	電子部品の販売
River Electronics (Singapore) Pte. Ltd.	千米ドル 123	100	電子部品の販売
River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.	千マレーシアリングギット 10,695	60	電子部品の製造

# Stock Information

## 株式の状況

### 株式の状況

(2009年3月31日現在)

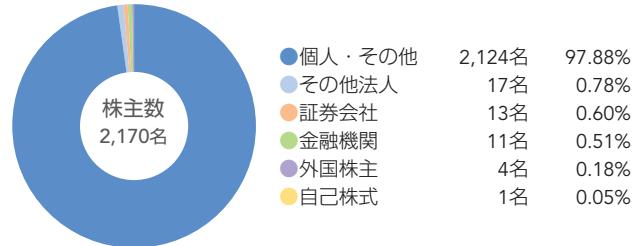
発行可能株式総数 21,600,000株  
 発行済株式の総数 7,492,652株  
 (自己株式121,058株を含む)  
 株主数 2,170名  
 (前期末比454名増)

#### 大株主(上位10名)

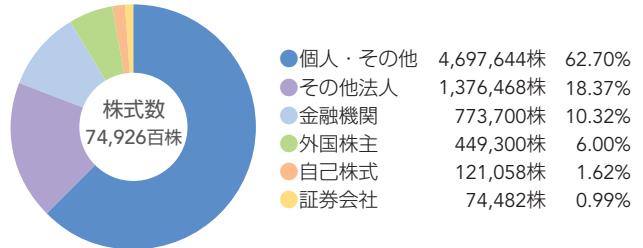
株主数	当社への出資状況	
	持株数(百株)	出資比率(%)
若光株式会社	12,233	16.69
竹田 和平	3,200	4.34
株式会社山梨中央銀行	2,680	3.64
NORTHERN TRUST CO AVFC RE NORTHERN TRUST GUERNSEY NON TREATY CLIENTS	1,941	2.63
リパー従業員持株会	1,754	2.38
若尾 磯男	1,651	2.24
若尾 富士男	1,568	2.13
株式会社みずほ銀行	1,500	2.03
NORTHERN TRUST CO AVFC RE NORTHERN TRUST GUERNSEY IRISH CLIENTS	1,302	1.77
持原 和則	1,300	1.76

(注) 出資比率は、自己株式121,058株を控除して計算しております。

### 所有者別株主数分布状況



### 所有者別株式数分布状況



株主さま向けアンケート

### 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード  
6666

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動送信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーケーエーメディアの提供する「e株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーケーエーメディアに関する詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※回答内容が第三者に開示されることはありません。回答内容が本人の意思に反するものではありません。

●アンケートのお問い合わせ先「e株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

### ホームページのご案内

<http://www.river-ele.co.jp/>

当社に関する最新動向や情報をお伝えしております。ぜひご覧ください。



トップページ



投資家情報

## 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで

**定時株主総会** 毎年6月開催

**基準日** 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に定めることがあります。

**単元株式数** 100株

**株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関** 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社

**株主名簿管理人  
事務取扱場所** 東京都中央区八重洲二丁目3番1号  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

**(郵便物送付先)** 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

**(電話照会先)** 0120-176-417 (フリーダイヤル)

**ホームページURL** <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

**公告方法** 電子公告により行います。  
当社ホームページに掲載 <http://www.river-ele.co.jp/>  
ただし、事故その他の止むを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

**上場証券取引所** ジャスダック証券取引所

**証券・銘柄コード** 6666

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。